

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	日本エア・リキード合同会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	東京都港区芝浦三丁目4番1号 グランパークタワー
工場等の名称	日本エア・リキード合同会社 名古屋工場
工場等の所在地	愛知県名古屋市南区丹後通五丁目1番12
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	各種高圧ガスの製造
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和8年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月30日 ~ 令和6年10月28日		
公表方法	掲示 閲覧	(場所) 事務所内	
	ホーム ページ	(HPアドレス)	
	冊子	(冊子名・ 入手方法)	
	その他	(その他詳細)	
公表に係る問合せ先	TEL:052-612-3260もしくはメールアドレスatsushi.suzuki@airliquide.com		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 省エネルギー活動の推進

事業所で使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を令和 4 年度までに令和 1 年度比 3 % を目標に削減します。

2. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進

廃棄物の発生量を抑制し、資源のリサイクルを推進します。

3. 従業員の環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進

従業員に対しては環境教育をすすめ、社外に対しては環境情報の公開を考えていきます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

名古屋工場長 ⇒ 推進委員 ⇒ サイト在籍社員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目 (令和 5 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,822	t-CO ₂
① 温室効果ガス 換算 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		1,822

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
温室効果ガス総排出量	1,752	t-CO ₂	1,699	t-CO ₂	1,822	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			3.0	%	▲ 4.0	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率 (対 基準年度)				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

電気使用量増加により悪化。コロナ禍明けの需要回復とおもわれる。
 社用車1台を水素自動車に置換済み。
 LED予算化に向けて、事業部と折衝中。事業化していち早くLED化して消費電力を削減したい。
 工場屋根にソーラーパネル設置を検討したが、高压ガス管轄名古屋市消防局に伺ったところ関係法令構造規格に抵触することが判明し断念した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動実践（冷暖房）	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房温度の適正化 ・冷暖房時間の短縮 	冷房：28℃ 暖房：20℃ テレワーク推進	実施中
省エネルギー・省資源の行動実践（照明）	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みや残業時には不必要な照明を消す ・反射板を定期的に清掃するなどし、最小限の照明での照度を確保する 		LED置換に向けて予算申請中
自動車等輸送機器に関する対策	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進、急加速をしない、アイドリングストップの確実な励行などエコドライブを推進する ・不要な荷物を積んだまま走行しない ・可能な限り公共交通機関を活用するなど、自動車の使用を控える 	水素自動車への置き換え	1台水素自動車に置換済
工場等の製造過程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ・製造工程の見直し・改善によって、省エネルギー化を図る ・使用量に見合った生産量にし原単位をあげる 		客先夏休みに合わせて、窒素発生装置を停止。
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・両面コピー・裏紙利用によりコピー用紙を削減する ・紙・プラスチックの資源ごみの分別を行い、リサイクルする 		クラウド共有で部内回覧はペーパーレス化済 他は実施中

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>需要の低下する客先夏休みを合わせて窒素発生装置を停止ことによって電気使用量を削減しました。</p>
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>省エネ活動の推進ポスター掲出、会合での実施継続の周知。</p>
